

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

レバノン：イラン大使館爆破事件の犯行声明

駐レバノンのイラン大使館に対する爆破事件について、ツイッターを通じて「アブドッラー・アッザーム部隊」が犯行声明を出したとされている。問題の「つぶやき」は、「アブドッラー・アッザーム部隊」の構成員のシラージュッディーン・ズライカートのアカウントで発表されたもので、以下の内容からなる。

- * アブドッラー・アッザーム部隊のフサイン・ブン・アリー隊が事件の背後にいる。
- * この作戦はレバノンのスンナ派の勇者2名による二重殉教作戦である。
- * レバノンにおける諸般の作戦は、2つの要求が実現するまで続くであろう。第一は、イランの党（注：ヒズブッラーのこと）要員がシリアから撤退すること。第二は、レバノンの不正の監獄から我々の捕虜が解放されること。
- * 「ファジュール広報センター」を通じ、「ベイルートのイラン大使館攻勢」についての公式声明が出るのを待て。

「アブドッラー・アッザーム部隊」は、2009年ごろからレバノンで活動を始め、イスラエルに対するロケット弾発射事件についての犯行声明、イラン・シリア・ヒズブッラーを非難する扇動や論説を発表してきた。しかし、同派の軍事行動は、作戦を成功裏に実施したことを証明する映像や画像を伴って発表されたことが一度もなく、同派の作戦能力を証明する材料は皆無である。2010年8月2日付で同派が発表した、日本企業に所属するタンカーに対する攻撃についての犯行声明が、具体的な根拠や攻撃の実行者のみが知りうる情報を全く開示せずに攻撃実施を主張した、信憑性が低い声明の代表例である。それにも拘らず、「アブドッラー・アッザーム部隊」はイスラーム過激派の広報分野では「真正な」ジハード団体との認知を得てきた。これは、同派の構成員にサウジで指名手配されたイスラーム過激派容疑者が含まれており、このような人脈を通じ、イスラーム過激派諸派が使用する声明などの発表経路に参加していたからである。ただし、同派とアル=カーイダとの間には、明示的な忠誠表明とその受け入れのような関係は存在しない。

今後注目すべき点は、同派が本当に正式な経路を通じて公式声明を発表するか、その声明で今般の事件が同派の作戦であることを証明する事実を開示できるか、の2点である。とりわけ、本

稿執筆時点では捜査当局が実行犯2名の身元特定には至っていないため、当局に先んじて作戦実行者の身元を開示し、それを出撃映像や遺言映像などによって裏付けることができれば、同派の発表の信憑性は磐石となる。

(イスラーム過激派モニター班)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799